

大村市日泊町帯田のヘツカニガキ (辺塚苦木)

宮崎 正隆¹⁾・迫頭 裕二²⁾・堀口 稔伸³⁾*Adina racemosa* in Hidomarumachi, Omura, NagasakiMasataka MIYAZAKI¹⁾, Yuji SAKOGASHIRA²⁾ and Toshinobu HORIGUCHI³⁾

はじめに

ヘツカニガキ *Sinoadina racemose* Siebold et Zucc. はアカネ科の南方系の落葉高木で、大きなものは高さ20m、幹周り3m以上にもなる。中国南部、台湾や琉球列島から北上し、九州西部と四国南部に分布するが、本州には見られない。九州では鹿児島県、熊本県、長崎県に見られる。福岡、佐賀県にはなく、長崎県が九

州西岸における分布の北限である(中西 2015)。和名は鹿児島県大隅半島の辺塚(へつか)で発見されたことから付けられた。枝葉をかじると苦みがある。長崎県では、大村市日泊町帯田、諫早市飯盛町、同市多良見町にかなりの個体が知られているが、面白いことに五島列島や島原半島には見られない隔たった分布をしている。7月頃に枝先から球形の花序を出して、淡黄色の花を多数つける(図1)。諫早市飯盛町の橋湾を望む川下丘陵の南側斜面に長崎県天然記念物(昭和53年8月指定)となったヘツカニガキの大木がある。根元に近いところの幹周りが2.3m、その上から幹周り1.5mと1.4mの二本の支幹に分かれている。天然記念物に指定されたのは北限地であって、かつ珍しい樹種だったからだろう。この樹を初めて発見した人は田代善太郎氏であった。上野・上野(1980)によれば、ヘツカニガキの分布は鹿児島県、熊本県、長崎県、四国の高知県から年平均気温16℃、冬季1月の気温6℃の線とほぼ一致しており、この樹が耐えうる気象条件の限界と考えられており、「ヘツカニガキの特殊な生



図1. 7月に開花したヘツカニガキ



図2. ヘツカニガキと迫頭、堀口の両氏

¹⁾ 〒854-0074 諫早市山川町13-16

²⁾ 〒856-0020 大村市小路口本町560-2

³⁾ 〒856-0846 大村市日泊町657

態と分布から、保護の必要を痛感する」と述べている。

『長崎県植物誌』1940（昭和15）年に、大村市三浦（日泊郷）にヘツカニガキの分布が報告されていたが、その所在が長い間確認できなかった。1978（昭和53）年に地元の植物研究家・上野二巳氏（当時諫早農業高校勤務）により、ようやく日泊郷の海岸で萌芽株2株、ついで1980（昭和55）年、釘之頭に群落が発見された（上野・上野 1980）。

当時も見つかった場所は荒れた状態であったが、個人所有の耕作地であり、このままでは刈り払われる危険性があるということで、上野二巳氏の母校でもある三浦小学校の校内2カ所に卒業生父兄も加わって移植され、郷土の大切な樹木を後世に残すことになった。現在は、運動場そばの斜面に1本だけ残っているが、強風のため上部の幹が折れてなくなり衰れた状態となっている。

令和3年になり、三浦地区振興会の堀口稔伸会長、三浦小学校職員の迫頭裕二氏たち有志が三浦地区振興の一助になればとヘツカニガキを守る取り組みが始められた。

大村市日泊町帯田のヘツカニガキ

大村湾沿いに走る県道37号（大村貝津線）の長崎県立精神医療センター入口から入った海側の細い道路にヘツカニガキを見ることができる。一本は幹周り2.9mで上部が3本の支幹に分かれた大木で、7月には多数の淡黄色の丸い花を多数つけていてすぐに判るが、直ぐそばには資材置き場が造られている。ヘツカニガキの種子には翼がない。しかし、さく果は上向きであることから、種子は風により広く分布されるのであろう。

大村湾の防波堤近くにはかなり大木となったヘツカニガキを4株と小木4株ほどを確認した。ただ、これらの樹木は荒廃した地にあり、ダンチクの大群落やヨシ、ススキ、つる植物のクズ、スイカズラ、カナムグラ、ヤブガラシなどで覆い尽くされ、根元にさえ近づけなかった。道造りを行って調査した結果、根回り2.85m、樹高25mや同じく根回り3.05m、樹高22mのヘツカニガキを計測した。いずれも根元から幹分かれた樹形をしており、どれにもヤマフジ、ピナンカズラ、キズタ、ゴヨウアケビ、スイカズラなどのツル植物が枝先までびっしりと巻き付いていた。そのためツル植物の根の切り取り除去も同時に行った。しかし、間違いなく樹勢といい、幹周りも飯盛のヘツカニガキに匹敵するものである。



図3. 根元から幹分かれたヘツカニガキ

終わりに

これらの貴重な樹を何とか地元住民、大村市民にも知って欲しいとの思いから、三浦地区振興会と日泊地区辺塚苦木保存会では「九州西岸北限域のヘツカニガキ群生地（大村市日泊町帯田）」と名付け、令和4年の花の時期に向けて、令和4年5月に案内（解説）板の設置を行った。道路からヘツカニガキまでの散策路の整備をぜひ有志を募って行うことを考えている。

文 献

- 上野二巳・上野二知 1981. 日本に於けるヘツカニガキの分布と種子の散布. 長崎県生物学会誌 (21): 27-36.
- 外山三郎 1980. 長崎県植物誌. 長崎県生物学会. 長崎.
- 宮崎正隆 2013. 第三章 第一節 植物. 新編大村市史 (1) 121-168.
- 中西弘樹 2015. 長崎県植物誌. 長崎新聞社. 長崎.